

「診療報酬引き上げ」最多

保団連フォーラム 現場の調査を報告

全国保険医団体連合会（保団連）の第38回医療研究フォーラムが

8日、東京都内で開催

されました。今回のメ

インテーマは「いのち

と暮らしを支える医療

と臨床の現場からの発

信」です。

住江憲真会長が「国

民生活の困難、医療現

場の困難打開のために

今必要なことは、所得

再分配機能の強化・改

善。大企業や富裕層へ

の課税強化による社会

保障財源の拡大が必要

だ」とあいさつしまし

た。

コロナ禍4年目の診

療現場の実態と意識調

査の全国共同調査結果

を、保団連の中島幸裕

副会長が報告しまし

た。

同調査は23年4月

5月31日に実施。保険

医協会・保険医会の医

科・歯科開業医会員数

の10%、8642人を



コロナ禍4年目の診療

現場の実態・意識調査

結果を報告した保団連

の医療研究フォーラム

は8日、東京都千代田区

無作為に抽出して調

査。回答数は医科・歯

科合わせて2088通

でした。

それによると、業務

量の変化について、医

科では「非常に増え

た「増えた」を合わせ

て54・2%、歯科では

43%でした。疲労度の

変化では、医科で「増

えた」が55・2%、歯

科で48・8%でした。

また、医療機関の経

営収支の状況では、

「極めて順調」「順調

を合わせて医科は18・

1%で、昨年比1・4

割増。歯科は14・3%

で、昨年比0・2割増

でした。医療経営改善

のために望む対応とし

て「診療報酬の引き上

げ」が最多となりました。

中島氏は医療機関の

経営について、医科の

3割以上、歯科の4割

以上が「苦しい」「非常

に苦しい」状況にある

と指摘。「医療機関が

地域での役割を発揮し

ていくためにも、保団

連では今回の調査結果

を踏まえた取り組みを

進めていきたい」と述

べました。

京都大学の山極壽一

名誉教授が「人間の本

質とコロナ後の未来」

と題して記念講演。

9日には六つの分科

会や、シンポジウム

「認知症に向き合う医

療と予防と共生に向け

て」が聞かれます。